



文部科学省

NANZAN
UNIVERSITY

2025年度の活動報告

日本語教師養成・研修推進拠点整備事業

中部ブロック 南山大学

上田崇仁

必要
となる
こと

日本語
教師
にとって

これ
からの

世界と日本 日本語教育が必要とされる社会的背景を考
異文化接触 多様な背景を持つ学習者個々に必要と
日本語教育の歴史と現状 学習者に
言語と社会 学習者の円滑な社会生活を実現するために、社会、文化、政策と言語との関係
言語と心理 効果的な日本語教育を考えるために、学習者の言語情報の処理過程や学習の仕組み、学習の方法について理解する。

社会的背景を考
多様な背景を持つ学習者個々に必要と
学習者に
社会、文化、政策と言語との関係
学習者の円滑な社会生活を實現するために、社会、文化、政策と言語との関係
効果的な日本語教育を考えるために、学習者の言語情報の処理過程や学習の仕組み、学習の方法について理解する。

社会の
が日本語を必要とすに至った経緯や、学習者と周囲との接触の状況を理解
や学習者
を考へるために、日本語教育の歴史や現状、制度を理解する。
言語と社会の関係
言語使用と社会
異文化コミュニケーションと社会

言語と心理

今年度の主な活動

- 現職者向け研修会の開催
- 教員養成課程指導者・養成課程在籍者向け勉強会の開催
- 上記を含む一般の方向けの講演会・シンポジウムの開催
- 参加者に対するアンケートからの調査
- 日本語学校、地域日本語教室の訪問と意見交換
- 他の日本語教育関連事業との情報交換及び連携

今年度の事業展開の背景

- ① 教師のスキルアップ
- ② 養成段階での学びを深める
- ③ 養成指導者の学びを深める
- ④ 日本に滞在する外国人の多様性を知る
- ⑤ 地域の外国人支援者・団体と日本語教師のサポートを考える

この地域の外国人、またその周辺で活動をしている人たちと日本語教育とを結びつける。

養成段階における視野の広さは、教員自身の視野を広げる。

今年度の事業展開

2024

(講演会・研修会) 愛知県立大学とコラボ

ジェンダーと日本語教育

(講演会) 夜間中学校を語る会とコラボ

(講演会) 外国人と防災、日本語教育

(調査) 日本語学校への調査 (金沢大学と共同)

(ネットワークの構築) 地域日本語教室の見学 (3か所)

2023

(講演会) 事業スタート

(ネットワークの構築) 協議会の初期メンバー集め

2025

(研修会) 日本語教育の参照枠ワークショップ

(講演会・研修会) 年少者への日本語教育 実践交流会

(研修会) JOPTワークショップ

(講演会・シンポジウム) ろう者と日本語教育

(勉強会) より一歩進んで学ぶ日本語教育勉強会 & 交流会 ~必須の50項目を取り上げて

「日本語教育史」、「第二言語習得」

(ネットワークの構築) 地域日本語教室の見学 (6か所) 日本語学校への広報 (3か所)

(ネットワークの構築) 協議会のメンバー拡大

(ネットワークの構築) 一般社団法人 国際パートナーシップセンター (認定日本語教育機関活用推進事業 連携モデル構築実施団体) との連携 (勉強会へのオブザーバー参加: 産業界との連携を模索)

(調査活動) 参加者からのアンケート分析

連絡協議会の開催

2025年5月1日

オンライン

新メンバーの紹介

2024年度の活動報告

評価報告

事業予定についての説明・承認

情報共有方法の改善策

など

2025年9月3日

オンライン

新メンバーの紹介

来年度の事業案募集

下半期の事業予定についての確認

今年度の調査及びその結果の利用
について

来年度の事業に向けての講師等予
備交渉

連絡協議会構成機関（五十音順）

- I.C.NAGOYA
- 愛知県立大学 日本語教育課程
- ECC日本語学院名古屋校
- 金沢大学（拠点校）
- セントラルジャパン日本語学校
- NPO法人 多文化共生リソースセンター東海
- TLS袋井
- 南山大学（拠点校）
- 一般社団法人 HORIZOPIC
- 学校法人静岡理工科大学 浜松日本語学院
- 株式会社 link design lab
- 愛知教育大学
- 愛知夜間中学を語る会
- EPA看護師介護福祉士ネットワーク
- NPO法人 子どもの国
- 一般社団法人 DIVE.tv
- CHEERS
- 名古屋市教育委員会
- 日本福祉大学
- （公財）浜松国際交流協会（HICE）
- みつぼし日本語学校

個別紹介

ねらい

参加者

概要

参加者の声

日本語教育の参照枠ワークショップ



【ねらい】

- 「日本語教育の参照枠」を活用した授業づくりのプロセスを体験し、授業活動を自ら考えることができるようになる
- さまざまな機関の日本語教育関係者との協働的活動を通し、「日本語教育の参照枠」を活用した授業についてともに考えられる継続性のある関係作りをめざす

【参加者】 88名

【内容】

- ① 学習者の課題について考える
- ② 学習活動の概略について考える
- ③ 評価と学習活動を具体化する
- ④ 研修をふりかえる

【参加者の声】

-モジュールボックスをいただき、その上でグループワークを行うことで1人では思いつかなかったことを皆さんと協働することで、明日からまた新鮮な気持ちで学習者と向き合えそうです。

-実際に授業づくりを体験できたこと。他の方とたくさん交流ができ、皆さんがどんなことを考えているかわかった

-今回の研修をきっかけに、日本語教育の参照枠、CEFRを勉強でき、また、研修を受講し、知識もっと深めていこうと思いました。

NANZAN UNIVERSITY

無料

「日本語教育の参照枠」を活用した授業づくりのためのワークショップ

日時 2025年 6月29日 10:00～16:00 昼休み 12:00～13:00
9時30分より開場・受付 昼食をご持参ください。近くに飲食店やコンビニがありません。

会場 南山大学 Q101教室 ●地下鉄名越線「八事駅」駅1番出口より徒歩8分 ●地下鉄名越線「名古屋駅」駅2番出口より徒歩7分
名古屋市中区山里町18 駐車場がないので、公共交通機関をご利用ください。

対象 現職日本語教師 または 日本語教師養成に携わっている方
本ワークショップ内で「日本語教育の参照枠」の内容の説明はありません。「日本語教育の参照枠」を購読したことのない方は、右のQRコードの動画をご覧になってください。また、当日はWi-Fiに接続できるパソコンと筆記用具をご持参ください。よろしくお願いいたします。

定員 100名 定員になり次第、受付終了

講師 柏谷 涼介 セントラルジャパン日本語学校
久保田 文子 京進ランゲージアカデミー
佐久間 みのり 横浜デザイン学院
野田 敏郎 国際こば学院
松葉 優子 浜松日本語学院

申し込みはこちら

申込締切 6月20日 金 上記のQRコードからお申し込みください。定員になり次第、受付を終了します。

お問い合わせ
日本語教師養成・研修推進拠点整備事業 中部事務局 (南山大学)
✉ jitc-chubu@nanzan-u.ac.jp

研修目標:
● 「日本語教育の参照枠」を活用した授業づくりのプロセスを体験し、授業活動を自ら考えることができるようになる
● さまざまな機関の日本語教育関係者との協働的活動を通し、「日本語教育の参照枠」を活用した授業についてともに考えられる継続性のある関係作りをめざす

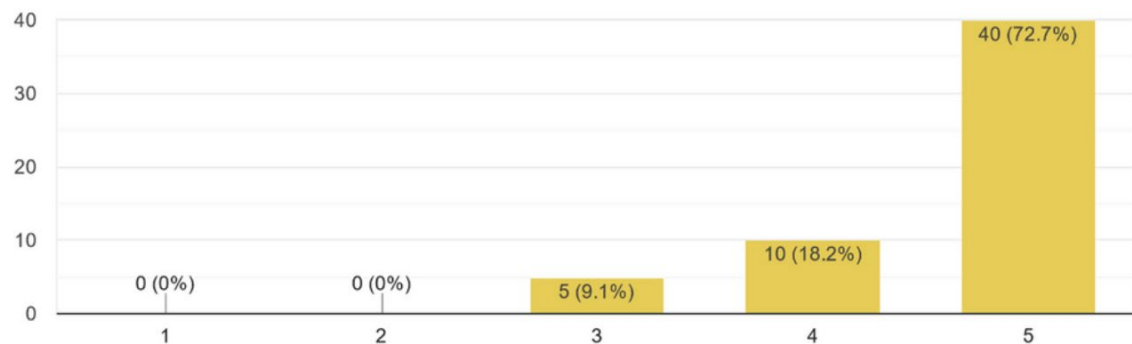
研修内容:
① 学習者の課題について考える
② 学習活動の概略について考える
③ 評価と学習活動を具体化する
④ 研修をふりかえる

主催 WAKAME 5
日本語教師養成・研修推進拠点整備事業 中部事務局 (南山大学) | 文部科学省 令和7年度 中部ブロック
日本語教師養成・研修推進拠点整備事業

アンケート結果

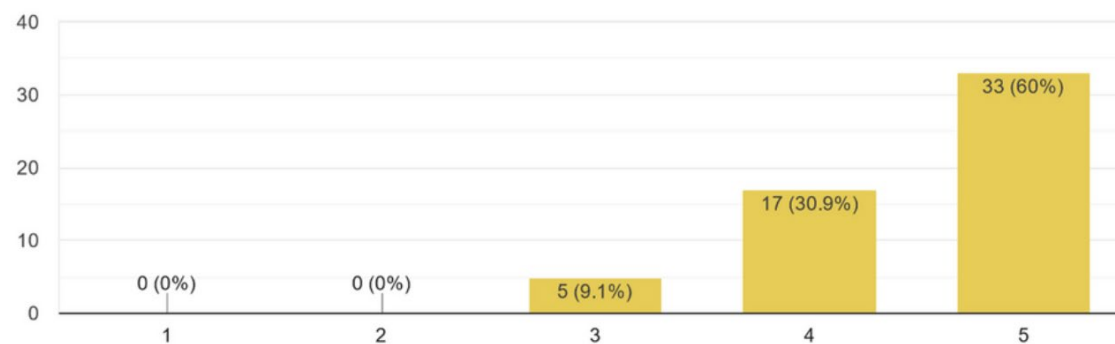
研修会に満足されましたか

55件の回答



研修会に期待していた内容は得られましたか

55件の回答

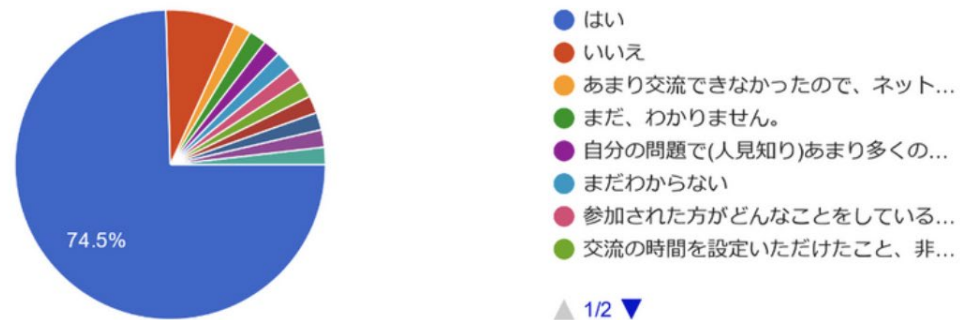


本ブロックにおける研修会や勉強会では、地域におけるネットワークづくりを意識した活動を展開している。

約75%の方が新たなネットワークづくりに寄与できているという回答があり、実際に、グループを作って勉強会を開催したというコメントもあった。また、アンケート時に寄せられた質問に対しては、講師の方からの回答をHPに掲載した。

研修会を通じて新たなネットワークができたと感じていますか。

55件の回答



年少者への日本語教育 実践交流会

【ねらい】

●年少者の日本語教育・支援にかかわっている人たちが相互に実践を紹介しあい、学びあう機会を提供する●実践事例から学び、今後の連携、共同の学びを通して子供たちの多様性を生かした指導に結びつけていく。

【参加者】20名（見学2名）

【内容】

- ① 実践事例紹介
- ② 実践交流
- ③ ふりかえり

【参加者の声】

-以前、学芸大学に研修に行きましたが、愛知県にも研修場所を作ってくださいって有難うございました。

-取り組み報告も、実践交流もとても有意義でした。特に、本校は、こどもの国で育てていただいた子どもたちが入学してくる小学校なので、幼児教育の重要性と取り組みの実際を知る機会が得られたことは、とても大きな収穫でした。実践交流では、私がグループで一緒にさせていただいた参加者のみなさんが日本語指導の分野で経験豊富な方たちばかりだったこともあり、学びが大きかったです。

東京学芸大学先端教育人材育成推進機構 外国人児童生徒教育ユニット(ユニットC)

第2回 実践交流会(対面)

「多様性が生きることばの教育実践2025」

私の実践を語り・子どもの姿に学ぶ

in
東海

日時: 10月19日(日) 13:00-16:30
会場: 南山大学 ライネルス中央図書館 NANTOルーム
愛知県名古屋市昭和区山里町18

定員: 20名
申し込み: グーグルフォーム
<https://forms.gle/1rhNc9bwdkVtTZKR7>

申込期間: 9月1日~10月12日

日本語教育・支援に関わっている教員・支援員・支援者の皆さんが、相互に実践を語り合い・学び合う場を設けることにしました。子どもたちも多様であれば、教育・支援の現場も多様です。教育・支援に携わる皆さんは、この多様性を活かして子どもがことばを豊かに働かせる力を高めるために、教育・支援活動で創意工夫をなされています。実践交流会では、参加される皆さんにご自身の実践について語り合ってください。授業のプランや教材、子どもの成果物など、実践の実際がわかる資料をもとに、子どもたちが何を学んだのかを検討するとともに、子どもの姿から明日の教育実践について学びたいと思います。その対話のプロセスで、子ども観、学習観、言語観が交差し、きっと創発が得られ、次なるアイデアが飛び出します。ぜひご参加ください。



★交流会に参加される皆様へ★

交流の時間に、ご自身の実践をご紹介します。紹介くださる実践の概要(対象・実践の場・活動のタイプ・持参する資料等)を、グーグルフォームにご記入・ご提出ください。

プログラム

- 13:00 開会
- 13:10 実践事例紹介
井村美穂・森井えみ(子どもの国)
中村夏帆(愛知県岩倉市立南部中学校)
- 14:30 実践の交流
45分間のセッション×2回 一人15分ずつの紹介・質疑応答
- 16:00 振り返り
「実践を語ることで見えること・子どもの姿から学んだこと」
コメンテータ:川口直巳(愛知教育大学)・上田崇仁(南山大学)・河野俊之(横浜国立大学)
- 16:30 閉会

「実践」って??
単元や1時間単位の日本語の授業に限りません。
「ことばの教育」に関わる日頃の教室活動、
「多様性が生きる」子ども同士の関係づくり等の工夫や取り組み、校内のチームづくりや学校・地域の連携のチャレンジ等も含まれます。
例)・中学1年「どんな部活動がある?」(JSLトピック型)・「あさがお教室(日本語学級)」の掲示・地域での学びを在籍学級で生かす工夫

お問い合わせ



NANZAN
UNIVERSITY

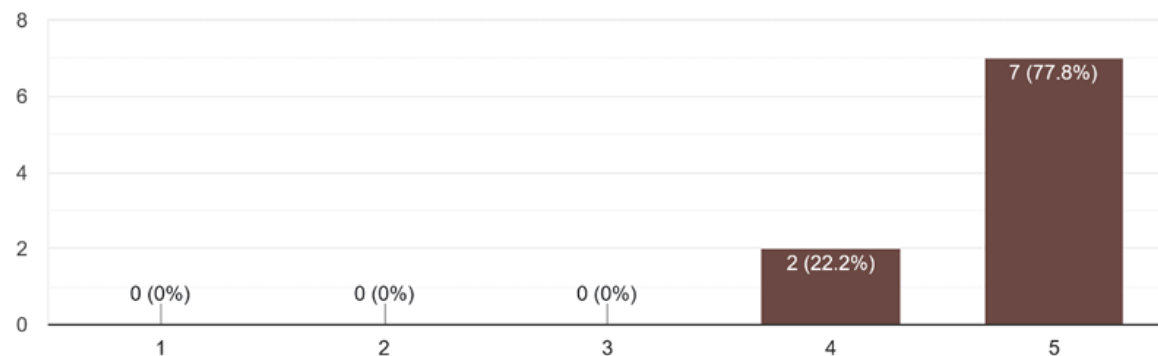
主催: 東京学芸大学 先端教育人材育成推進機構 外国人児童生徒教育推進機構
担当: 河野俊之・工藤聖子・稲田直子
連絡先: knihongo@u-gakugei.ac.jp

共催: 文部科学省委託 日本語教師養成・研修推進拠点整備事業(中部ブロック)
担当: 上田崇仁
連絡先: JLTC事務局 jltc-chubu@nanzan-u.ac.jp

アンケート結果

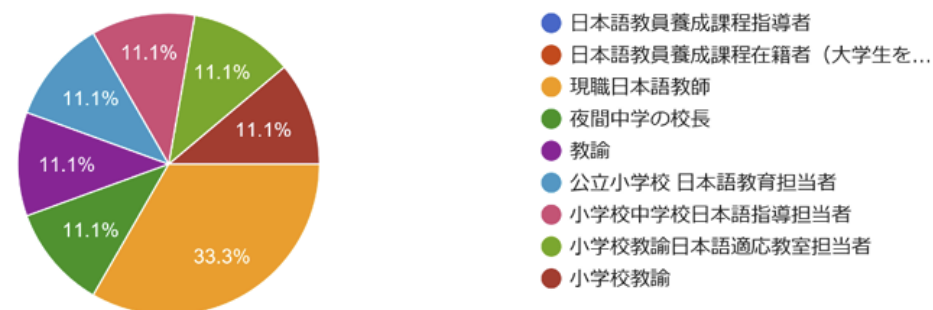
本日の研修会の満足度は

9件の回答



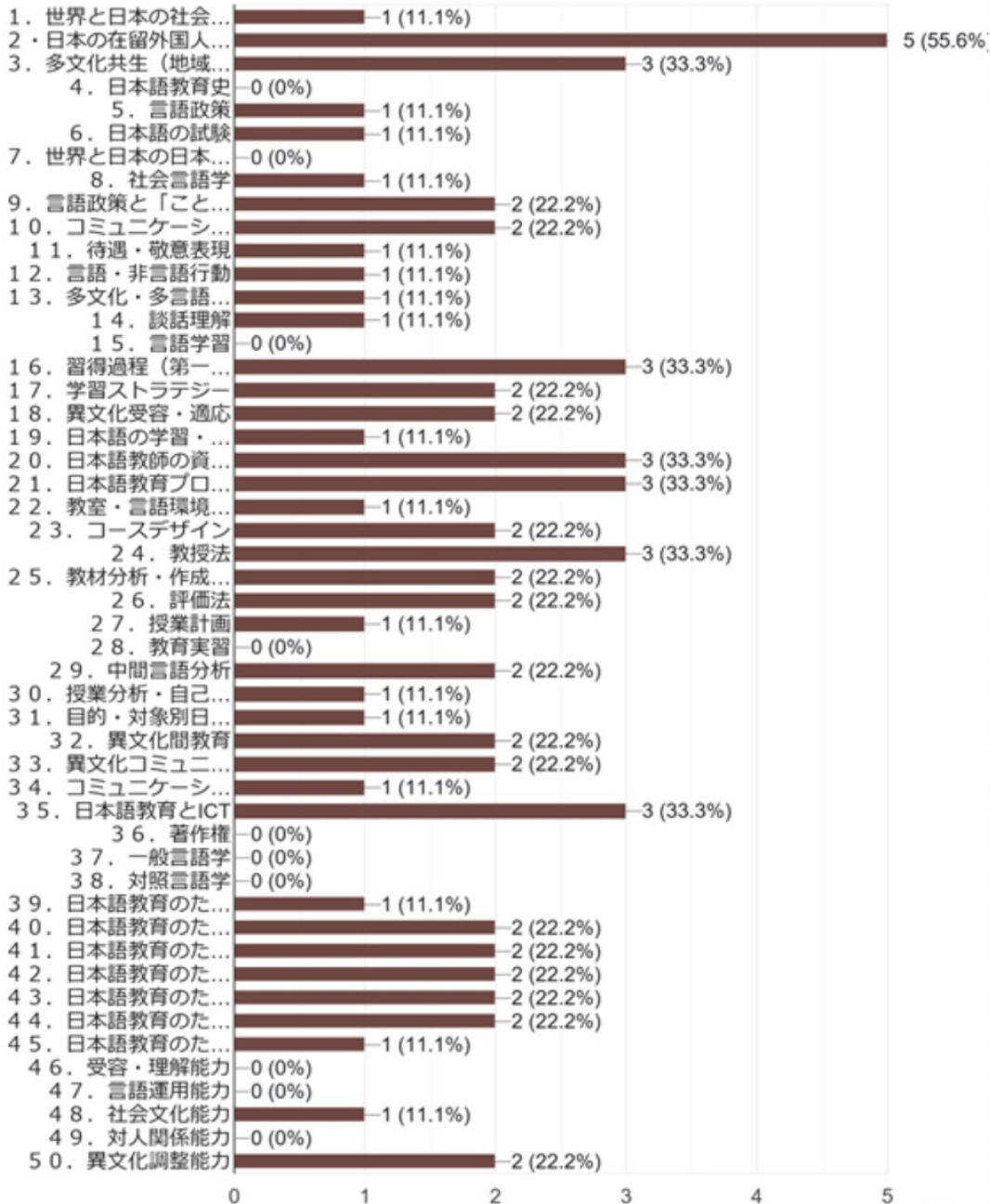
ご所属

9件の回答



本ブロックにおける研修会や勉強会では、地域におけるネットワークづくりを意識した活動を展開している。この実践持ち寄り交流会では、実践事例を持ち寄って意見交換し、相互のかかわりを強めていくことを意識した。参加者の内訳をみると、学校の教員・日本語指導担当者が最も多く、次いで日本語教師が多かった。また参加者アンケートからは、大学教員のシンポジウムを期待していた声もあり、今後検討していきたい。また、日本語指導者の実践の共有が非常に有用であることも再認識できた。学校の教員養成段階でも積極的に情報を流していくべきであろうということは、大学における教員養成を担う今回の関係者で共通して意識しているものであった。

「年少者：実践交流会」参加者からの希望



1. 日本の在留外国人施策

2. 同順位

1. 多文化共生（地域社会における共生）

2. 習得過程（第一言語・第二言語）

3. 日本語教師の資質・能力

4. 日本語教育プログラムの理解と実践

5. 教授法

6. 日本語教育とICT

JOPTセミナー

文部科学省
日本語教師養成・研修推進拠点整備事業
中部ブロック 南山大学
JOPTセミナー in 名古屋2025

2025年12月7日(日) 13:30~16:30

場所： 南山大学 R棟 R49教室

参加費： 無料

プログラム：

第1部 JOPTの概略説明

評価の簡単な説明と評価体験

第2部 JOPT活用事例の紹介

① JOPT-Aの実践事例紹介(1)

下 藪一恵氏(名古屋国際外語学院)

② JOPT-Kの実践事例紹介(2)

平井辰也氏(EPA看護師介護福祉士ネットワーク)

質疑応答

NANZAN
UNIVERSITY



【ねらい】

- JOPTの概要を学び、実際の場面から評価を体験し、そこからのフィードバックを得ることから学びを深める。
- 活用事例から、自らの実践活動へのつながりを考える。

【参加者】51名

【内容】

- ① JOPTの概要説明
- ② 評価体験
- ③ 実践事例
- ④ 質疑応答

【参加者の声】

-JOPT実践例でお聞きした中で学習者の意欲に変化が見られたというのが印象に残っています。また勤務校でスピーチテストの評価をすることがありますが、自分の採点が周りの先生方に比べて甘いということがわかったのも思わぬ収穫でした。

-JOPTの評価を行うことでこういった試験かがよくわかりましたし、また実際の活用例を聞いて、使ってみたいと思いました。

-評価というと、悪いところを探していましたが、今日の研修を受けて考えを改めました。正しい日本語に固執していたと気づきました。



ご参加にあたっての注意点 セミナー前に、次の資料の視聴・閲覧をお願いします。

1. JOPT説明動画
[/https://youtu.be/Pltf759rbnU](https://youtu.be/Pltf759rbnU)
2. 公開問題(A&K)
2-1. A(アカデミック)の問題:
https://acrasweb.jp/wp-content/uploads/2023/08/A-公開問題_docx.pdf
2-2. K(介護)の問題:
<https://acrasweb.jp/wp-content/uploads/2023/08/JOPT-K-公開問題.pdf>

JOPTについて詳細 URL <https://acrasweb.jp/?p=101>

申し込み先: 右のQRコード・URLからどうぞ

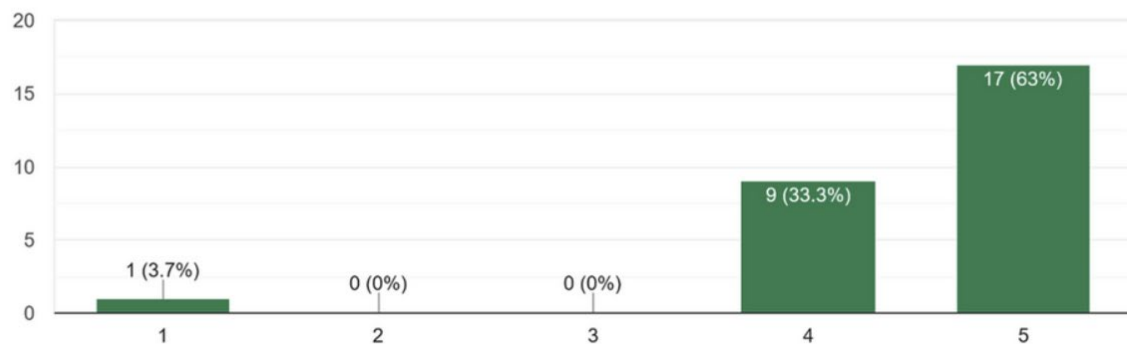


会話試験JOPT運営チーム
鎌田修・坂口昌子・坂本正・嶋田和子・白鳥文子・由井紀久子

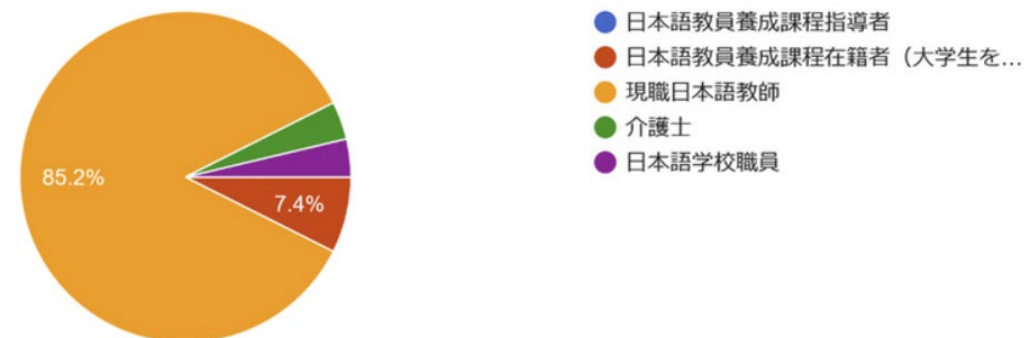
<https://forms.gle/AqwEzxXA5NlmUNs9>

アンケート結果

本日の研修会の満足度は
27件の回答



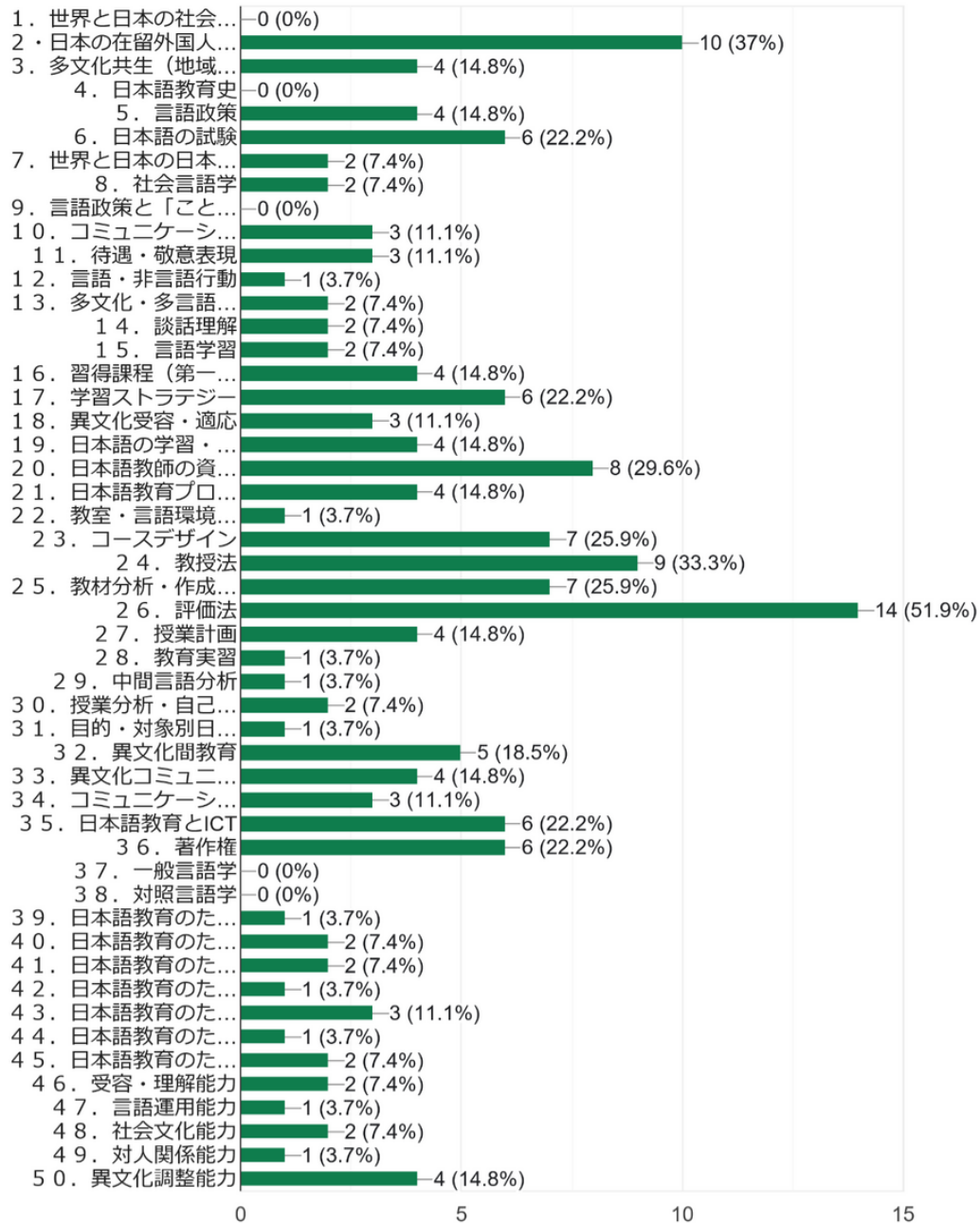
ご所属
27件の回答



本ブロックにおける研修会や勉強会では、地域におけるネットワークづくりを意識した活動を展開している。このJOPTのセミナーでは参加者が概要を聞いた後で実際に自分たちで評価活動を体験するという活動時に、ほかの参加者と意見交換をする時間があったことから、学びを深めることができていた。またACTFL-OPIのテスト資格を持つ方たちからの概要説明は、説得力もあり、いい機会となった。さらに、実践者の報告からは、参加者それぞれが自分たちの評価活動を振り返るきっかけとなったと思われる。アンケートの詳細は、本ブロック事業HPで公開している。

今回の研修会・講演会に向けて、必須の教育内容5...すか。(該当するものすべてお選びください。)

27件の回答



「JOPTセミナー」参加者からの希望

1. 評価法

2. 日本在住外国人施策

3. 教授法

4. 日本語教師の資質・能力

5. 同順位

1. コースデザイン

2. 教材分析・作成

ろう者と日本語教育



日本語教師養成・研修推進拠点整備事業

※本シンポジウムは、日本語教師養成・研修推進拠点整備事業の一部として実施するものです

シンポジウム2025

ことばの多様性 ともに生きる社会

—手話の現在地とこれからの日本語教育—

2025.
12/14 日
13:30~16:30
(受付13:00~)

先着
100名
参加無料

会場



南山大学
G30

会場へは、正門からお入り
いただくのが便利です。

手話通訳
文字起こし
(YYSYSTEM)
あり

多様な言語と文化が交差する社会において、「ことば」はどのような役割を果たすのでしょうか。本シンポジウムでは、「手話」と「日本語」、「母国の手話」と「日本で使われている手話」など、複数の言語が交錯する中で生きる外国籍ろう者、ろう者、難聴者の語りとおして、ことばの選択とその背景にある想いに耳を傾けます。そのうえで、日本語教育の最新の取組や現状を知り、そこにある課題について、当事者、教育関係者、行政、地域での実践者など、さまざまな立場の登壇者がディスカッションを行います。「自分らしく生きる」ことを支える「ことば」とは何かをともに考え、多様な視点から、日本語教育が果たす役割とこれからのあり方について議論します。

※どなたでも
ご参加いただけます

申し込み
事前申込制

右記QRコードを読み取り
必要事項を記入のうえ
お申込みください



12/5 金

- ・外国籍のろう者、ろう者、難聴者の方
- ・日本語教育や外国人支援に関わる方
- ・手話や多言語・多文化共生に関心のある方
- ・自治体、行政関係者
- ・言語、ことば、社会づくりに関心を持つ学生・市民の方

など、ぜひご参加ください!

実施団体：南山大学

一般社団法人HORIZOPIC

(手話×日本語プロジェクト)

中部圏SDGs 広域プラットフォーム

協力：(株)アイシン BR YYSYSTEM事業推進部

NANZAN
UNIVERSITY



Central Japan SDGs Platform
中部圏 SDGs 広域プラットフォーム

YY System

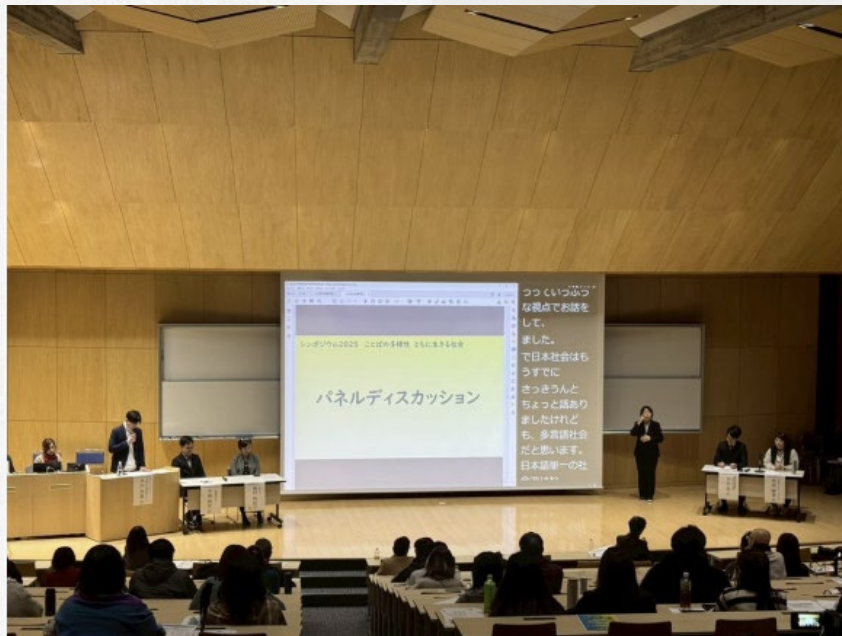
【ねらい】

- 手話、日本語といった複数の言語が交差する中で生きる外国人聾者、難聴派の語りを通して言葉について考える。
- 当事者、教育関係者、行政、地域の取り組みを聞き、多様な視点から日本語教育が果たす役割とこれからの在り方を考える。

【参加者】68名

【内容】

- ① 当事者の語り
- ② 基調講演
- ③ 話題提供
- ④ パネルディスカッション



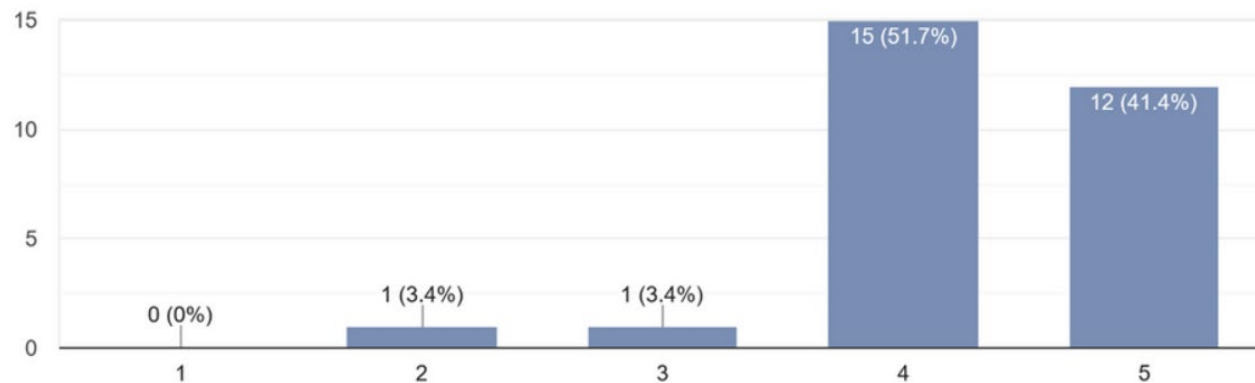
【参加者の声】

-障害者施設に勤め、日本語教室ボランティアにも関わっています。外国人だけでなく、聴覚障害者にとっての日本語教育の重要性を考えさせられました。福村さんの日本語のパワーを弱めるという実践の中での気づきは、ハッとさせられるものがありました。言語のマイノリティやアンデんティ等について改めていろいろな視点から考える機会になりました。

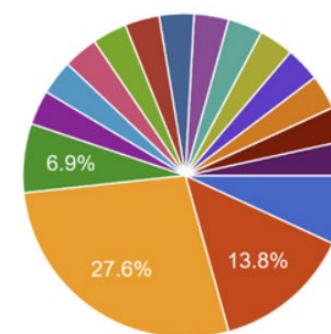
-ことばの多様性で初めてろうの方からの視点で考えるシンポジウムに参加することができました。その視点でもこれから日本語教育を考えてみるきっかけになりました。

アンケート結果

本日のシンポジウムの満足度は
29件の回答



ご所属
29件の回答

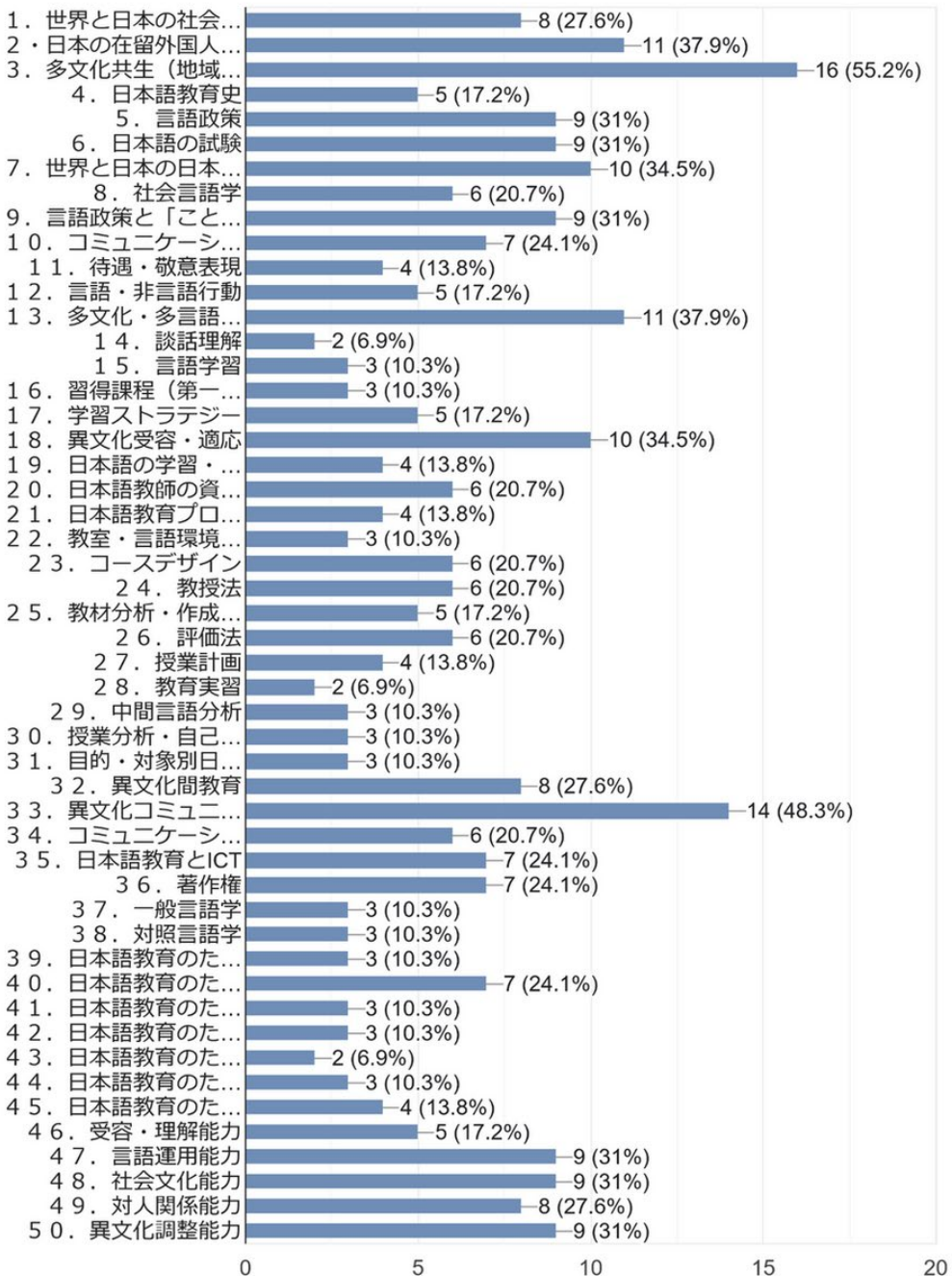


- 日本語教員養成課程指導者
 - 日本語教員養成課程在籍者 (大学生)
 - 現職日本語教師
 - 行政
 - 学生
 - 国際交流協会
 - 地方自治体
 - 無職
- ▲ 1/3 ▼

この企画では、ろう者と日本語教育を扱った企画として、本ブロックの視点を十分に反映できたものとする。養成段階を指導するものも、養成課程で学ぶものも、それぞれの学習者の特性を意識することは少ない。あるとしても、それは母語のことであったり、文化的な摩擦のことに終始することが多いかと考える。参加者からも、ろう者と日本語教育との関連の話聞くのは初めてという声があった一方で、パネルディスカッションでのパネリストの話のつながりがわかりにくかったという指摘もあった。アンケートの詳細は、本ブロック事業HPで公開している。

次回の研修会・講演会に向けて、必須の教育内容5...すか。(該当するものすべてお選びください。)

29件の回答



「ことばの多様性 共に生きる社会」参加者からの希望

1. 多文化共生（地域における共生）

2. 異文化コミュニケーション

3. 同順位

1. 日本の在留外国人施策

2. 多文化・多言語主義

4. 同順位

1. 世界と日本の日本語教育事情

2. 異文化需要・適応

5. 同順位

1. 言語政策

2. 日本語の試験

3. 言語政策と「ことば」

4. 言語運用能力

5. 社会文化能力

6. 異文化調整能力

より一歩進んで学ぶ日本語教育勉強会 & 交流会

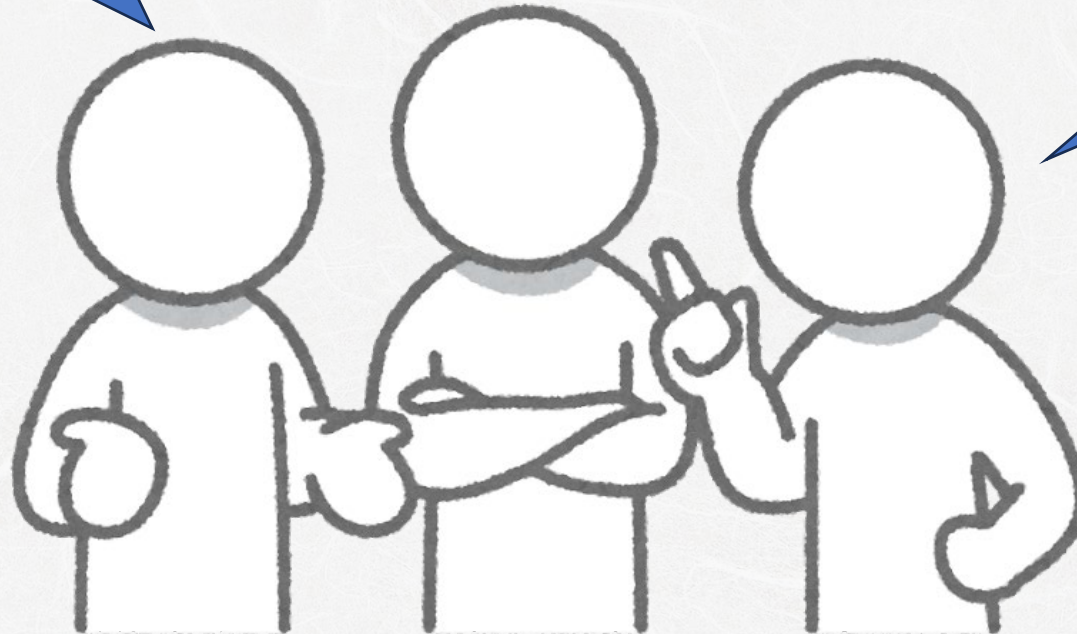
～必須の50項目を取り上げて

今、通っている養成講座、〇〇の分野の話は100分あるよ。

へえ、うちの養成講座は、50分授業の中で触れられたただけだったな。面白かったからもっと勉強したいな。

友達の大学は〇〇って授業としてあるみたいだけど、うちの大学は90分の中で1回触れられただけ。

養成講座・大学での講義で50項目の扱いは軽重がある。
「もっと学びたい」
「もっと知りたい」
は、養成者側にも、養成講座受講者にもある。



じゃ、
やってみよう
「現職教員」
「行政関係者」
「大学教員」
「支援団体」 etc

得意分野を共有しよう

より一歩進んで学ぶ

日本語教育勉強会 & 交流会 ～必須の50項目を取り上げて

「日本語教育史」



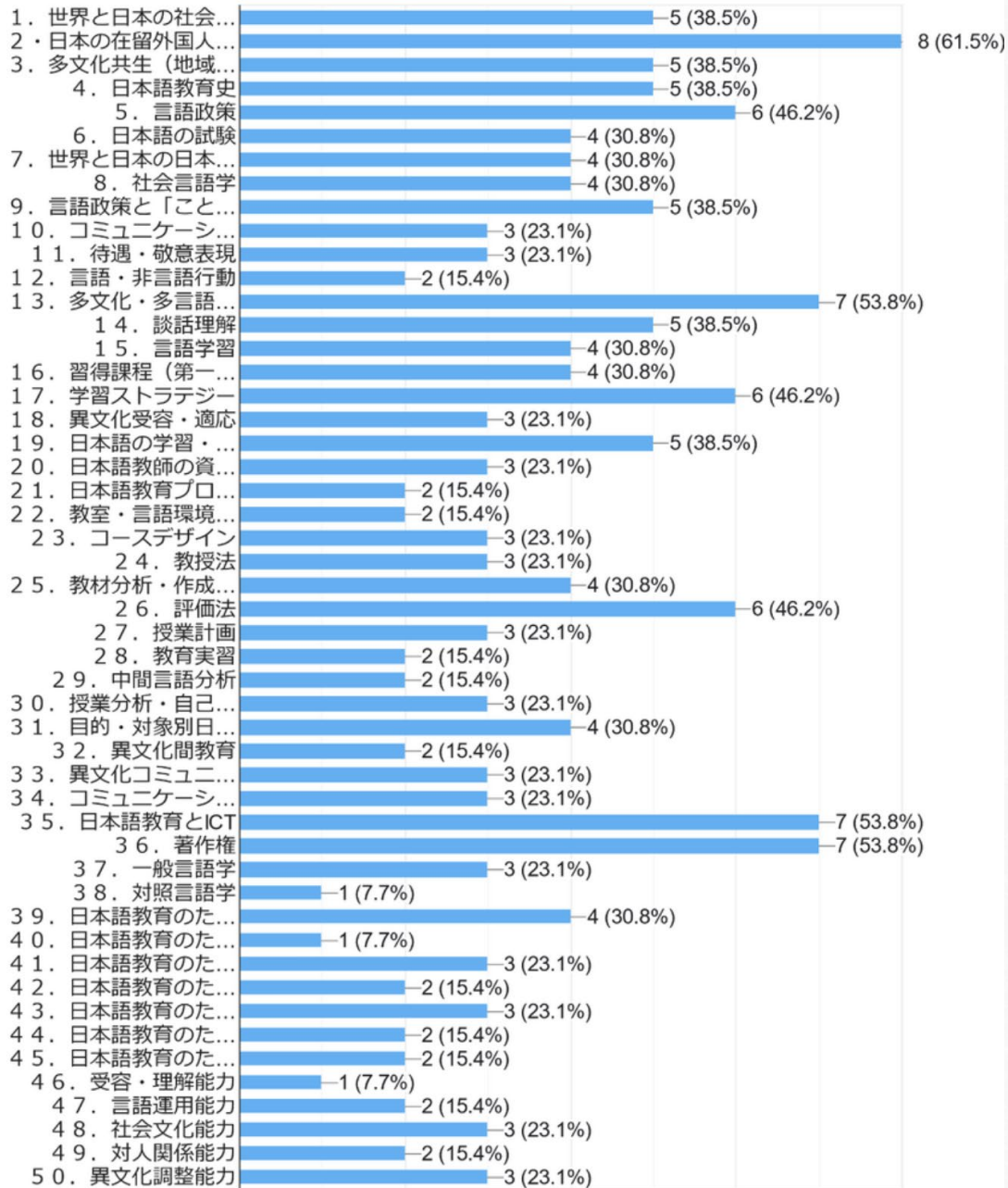
【参加者の声】

-貴重な資料を惜しみもなく見せていただきありがとうございました。実際に古い教本を手にとると、時代や場所を超えて言語学習者と繋がったような気持ちがして感動しました。

-養成課程では暗記科目になりがちな日本語教育史の内容を、実際に手に取って見ることができたのがとても良かったです。資料もたくさんありがとうございました。欲を言えば、もう少し言語教育が戦時中どう使われたのかなど、日本語教師が日本語教育史を勉強する意義について触れても良かったかもしれないと思いました。



「日本語教育史」勉強会参加者からの希望



1. 日本の在留外国人施策

2. 同順位

1. 多文化・多言語主義
2. 日本語教育とICT
3. 著作権

3. 同順位

1. 言語政策
2. 学習ストラテジー
3. 評価法

より一歩進んで学ぶ

日本語教育勉強会 & 交流会 ～必須の50項目を取り上げて

「第二言語習得」

【参加者の声】

-先生のお話がユーモアもあり、とてもわかりやすく、あっという間に時間が過ぎていきました。特にデータの見方や新理論が興味深かったです。L2学習者が勇気づけられる内容でした。

-初心者が学ぶ日本語教師養成講座では触れないところを学ぶことができ、差別化ができていて満足でした。

-短い時間で、端的に講義頂け、臨界期の仮説の意味に気づくことができました。今後成人の学習者に対して希望を持って臨めると思います。

-第二言語習得（特に年齢との関係）に関して、長年抱えてきたモヤモヤが晴れました。パトリシア・クールのTEDの映像の誤った理解が正せたことも良かったです。引用し、励まし（脅し？）てきた年少の学習者に申し訳なく思っています。



文部科学省 令和7年度 中部ブロック 日本語教師養成・研修推進拠点整備事業

日本語教員勉強会 第2回

より一歩進んで学ぶ日本語教育勉強会 & 交流会
～必須の50項目を取り上げて～

参加費 **無料** 定員 **30名**
(先着順)

講師
南山大学 教授
岩崎典子氏

対象
日本語教員養成課程指導者
養成課程在籍者
現職の先生方

会場
南山大学 Q312教室 → **会場変更 Q502教室**
名古屋市昭和区山里町18

日時
2025年
11月8日 土
10:00 ~ 12:00
(開場・受付 9:50)

主催
日本語教師養成・研修推進
拠点整備事業 中部事務局(南山大学)

連絡先
jltc-chubu@nanzan-u.ac.jp

お申込み
右記QRコードからお申込みください。
(定員になり次第、受付を終了します。)

申込締切 **11月3日(月・初)**

※駐車場がないので、公共機関でお越し下さい。
※オンラインでの開催はございません。

テーマ
習得過程
(第一言語・第二言語)



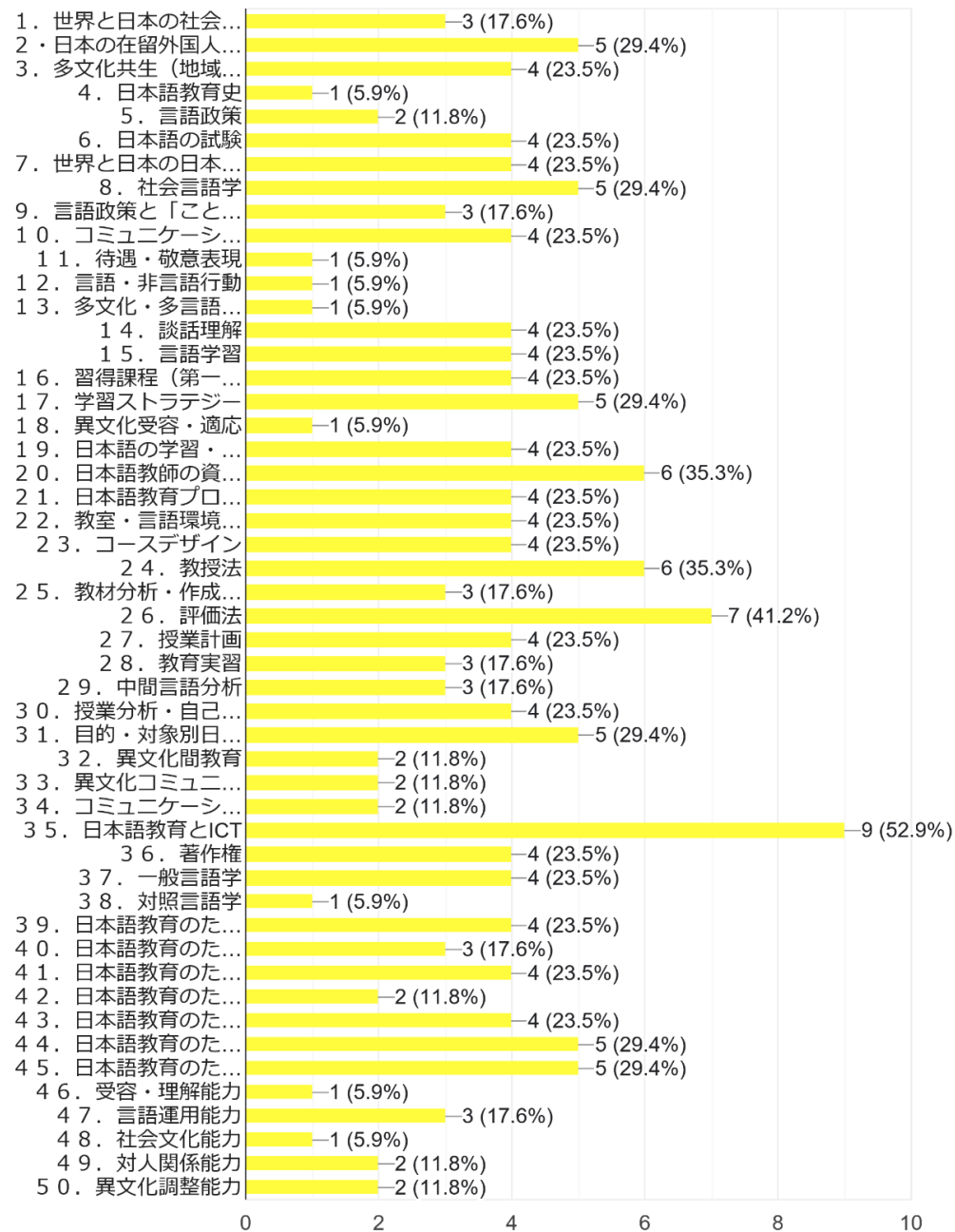
お申込みは



NANZAN UNIVERSITY
文部科学省

次回の勉強会に向けて、必須の教育内容50項目に...すか。（該当するものすべてお選びください。）

17件の回答



「第二言語習得」勉強会参加者からの希望

1. 日本語教育とICT

2. 評価法

3. 同順位

1. 日本語教師の資質・能力

2. 教授法

4. 同順位

1. 日本の在留外国人施策

2. 社会言語学

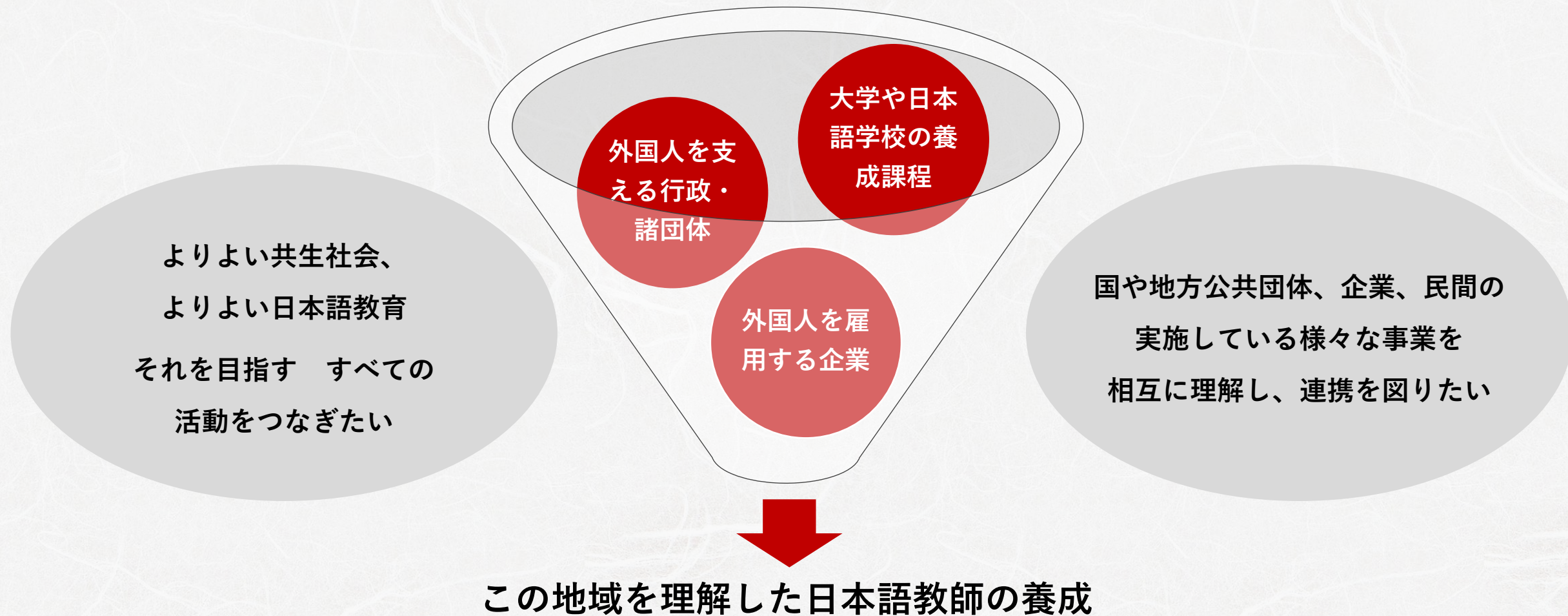
3. 学習ストラテジー

4. 異文化間教育

5. 日本語教育のための意味体系

6. 日本語教育のための語用論的規範

地域の様々な団体とつながるために



この事業が様々な団体とコラボして相互の活動を周知、理解、そして活用されるように。